

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-1418

(43) 公開日 平成10年(1998) 1 月 6 日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 7/00			A 6 1 K 7/00	U C D F L
審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 4 頁) 最終頁に続く				

(21) 出願番号 特願平8-174187

(22) 出願日 平成 8 年 (1996) 6 月 12 日

(71) 出願人 000000952

鐘紡株式会社

東京都墨田区墨田五丁目17番4号

(72) 発明者 斎藤 雅人

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘
紡株式会社化粧品研究所内

(72) 発明者 黒田 章裕

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘
紡株式会社化粧品研究所内

(54) 【発明の名称】 シート状バック料

(57) 【要約】

【課題】 角栓や老化した角質を除去する効果に優れ、除去後の傷の化膿を抑制したシート状バック料を提供する。

【解決手段】 殺菌剤および／または抗菌剤を配合することを特徴とするピールオフタイプのシート状バック料。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 殺菌剤および／または抗菌剤を配合することを特徴とするピールオフタイプのシート状バック料。

【請求項2】 ピールオフタイプのシート状バック料であって、最表面の粘着剤層に殺菌剤および／または抗菌剤が配合してあることを特徴とするシート状バック料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、角栓や老化した角質を除去する効果に優れ、除去後の傷の化膿を抑制したピールオフタイプのシート状バック料に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、特開平7-330575号公報などに見られるように、角栓を除去することを目的としたピールオフタイプのシート状バック料が種々考案されている。これらの製品は実際良く角栓を除去することが可能であり、また簡便である利点を有している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、角栓が良く除去できるということは、一方でむりやり角栓を除去したあとの傷が多く発生することにもつながる。そして、角栓が除去された後の傷を放置したために化膿や肥厚が発生してしまうことがあった。

【0004】

【課題を解決するための手段】この問題を鑑み、本発明者らは鋭意研究した結果、シート状バック料の表面または全体に殺菌剤および／または抗菌剤を配合することで、角栓や老化した角質を除去した後の傷の化膿を抑制したシート状バック料を完成するに至った。

【0005】すなわち、本発明の請求項1は、殺菌剤および／または抗菌剤を配合することを特徴とするピールオフタイプのシート状バック料である。また、本発明の請求項2は、ピールオフタイプのシート状バック料であって、最表面の粘着剤層に殺菌剤および／または抗菌剤が配合してあることを特徴とするシート状バック料である。

【0006】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を詳述する。本発明で用いる殺菌剤、抗菌剤としてはサリチル酸、サリチル酸塩、デヒドロ酢酸、デヒドロ酢酸塩、フェノール、パラクロロメタクレゾール、イソプロピルメチルフェノール、ヘキサクロロフェン、トリクロロカルバニリド、ハロカルベン、塩化ベンザルコニウム、臭化アルキルイソキノリウム、グルコン酸クロルヘキシジン、ジンクピリチオン等の殺菌剤、ペニシリン類、セファロsporin類、ペプチド抗生物質類、塩基性多糖類、水溶性塩基性ペプチド類、テトラサイクリン類、マクロライド系抗生物質類、クロラムフェニコール類等の抗生物質が挙げられる。これらの殺菌剤、抗菌剤の配合量

は、各成分により異なるが、たとえばグルコン酸クロルヘキシジンならばバックの全重量に対して0.05重量%が挙げられる。

【0007】本発明で用いる殺菌剤、抗菌剤は、バック料全体に分布していても、局所的に分布していても構わないが、肌に密着する部位に面した粘着剤層の表面に殺菌剤、抗菌剤を有する層を設けることが好ましい。この場合、バック料全体に分布させたものと比べて、より効果的に殺菌剤、抗菌剤を肌に浸透させることが可能となる。

【0008】本発明で用いるピールオフタイプのシート状バック料は従来公知のシート状バック料を用いることができる。シート状バック料は、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、カルボキシメチルセルロース、酢酸ビニル、アルギン酸、アクリル樹脂、スチレン樹脂などの従来公知の粘着剤層を有し、シート状に成型されたものを指し、さらに不織布や織布などの支持体を設けてあってもよい。

【0009】また、鼻等の形に事前に加工してあっても、また、鼻の頭等の部位に細孔の密度を多くするなど工夫がされていても構わない。

【0010】本発明のバック料における粘着剤層の厚さとしては、10～2000μmが好ましい。

【0011】本発明で用いるシート状バック料では、従来化粧料に使用されてきた各種の素材、例えば油剤、粉体（顔料、色素、樹脂）、フッ素化合物、樹脂、界面活性剤、粘剤、防腐剤、香料、保湿剤、生理活性成分、塩類、溶媒、酸化防止剤、キレート剤、中和剤、pH調整剤等の成分を同時に配合することができる。特に、平均粒子径5～300nmの微粒子酸化チタン、無水珪酸などの微粒子粉体を配合することが好ましい。

【0012】本発明のシート状バック料に、殺菌剤、抗菌剤を配合する方法としては、粘着剤の水またはアルコール溶解液を主成分とするバック料の原液に殺菌剤や抗菌剤を配合し、ドクターブレード等の機器を用いてシート状に加工、乾燥させる方法や、一度シート状に加工したバック料の表面にさらに殺菌剤や抗菌剤と粘着剤を溶解させた溶解液を塗布し、乾燥させる方法等が挙げられる。

40 【0013】

【実施例】以下、実施例及び比較例によって本発明を詳細に説明する。

【0014】実施例及び比較例で用いた化粧料の評価は、油性肌のパネラー10名に対して実施例および比較例で示したバック料を、週3回、計3週間使用してもらい、その期間に角栓を除去した部位に化膿もしくは炎症が発生した人数をもって評価結果とした。尚、シート状バック料の使用方法としては、鼻部を水で濡らしたあと、シート状バック料を密着させ、乾燥後（20～30分後）にシートを剥離する方法によって実施した。

【0015】実施例1

次の処方を用い、下記の操作にしたがってシート状パッ *

* ク料を調製した。

【0016】

1. ポリビニルアルコール	8.0重量%
2. カルボキシメチルセルロース	2.0
3. ポリアクリル酸Na塩	5.0
4. プロピレングリコール	5.0
5. 1, 3-ブチレングリコーン	2.0
6. 微粒子酸化チタン (平均一次粒子径35nm)	12.0
7. ヒノキチオール (殺菌剤)	0.2
8. エチルアルコール	10.0
9. 防腐剤	適量
10. 精製水	適量
合計	100.0

【0017】成分1~10を加熱混合し、パック原液を得た。ポリエステル製不織布にドクターブレードを用いてパック原液を塗布し、70℃にて10分間乾燥し、ついでローラーで全体を圧着した。そして、塗布面に撥水化ポリエチレンフィルムを密着して目的とするシート状パック料を得た。

※実施例1のヒノキチオールの代わりに精製水を用いた他は全て実施例1と同様にしてシート状パック料を調製した。

【0019】実施例2

次に示す処方を用い、下記の操作にしたがってシート状パック料を調製した。

【0018】比較例1

※20 【0020】

ベースシート

1. ポリビニルアルコール	8.0重量%
2. カルボキシメチルセルロース	2.0
3. ポリアクリル酸Na塩	5.0
4. プロピレングリコール	5.0
5. 1, 3-ブチレングリコーン	2.0
6. 微粒子酸化チタン (平均一次粒子径35nm)	2.0
7. エチルアルコール	10.0
8. 防腐剤	適量
9. 精製水	適量
合計	100.0

トップコート

10. ポリビニルアルコール	8.0
11. カルボキシメチルセルロース	2.0
12. ポリアクリル酸Na塩	5.0
13. プロピレングリコール	4.0
14. 1, 3-ブチレングリコーン	1.0
15. 微粒子酸化チタン (平均一次粒子径35nm)	14.0
16. ヒノキチオール (殺菌剤)	0.5
17. エチルアルコール	10.0
18. 防腐剤	適量
19. 精製水	適量
合計	100.0

【0021】成分1~9を加熱混合し、パック原液を得た。ポリエステル製不織布にドクターブレードを用いてパック原液を塗布し、70℃にて10分間乾燥してベースシートを作製した。ついで、成分10~19を加熱溶解し、0.1mm厚でベースシートに塗布し、80℃にて4分間乾燥してトップコートを設けた。そして、ロー

★ラーで全体を圧着した。トップコート面に撥水化ポリエチレンフィルムを密着して目的とするシート状パック料を得た。

【0022】比較例2

実施例2のヒノキチオールの代わりに精製水を用いた他は全て実施例2と同様にしてシート状パック料を調製し

た。

【0023】実施例および比較例のシート状パック料の評価結果を表1に示す。

【0024】

【表1】

	評価結果
実施例1	0
実施例2	0
比較例1	2
比較例2	3

【0025】実施例と比較例の比較から、実施例のシー *

* ト状パック料は化膿や炎症を起こした例が認められなかったのに対して、比較例では化膿や炎症を発生した例が認められた。殺菌剤の効果がパック料の密閉効果と共に有効に機能していることが認められた。また、角栓の除去効果は実施例、比較例ともに高く、試験終了後には毛穴の広がり、試験開始時と比べて大幅に小さくなっていた。

【0026】

10 【発明の効果】以上のことから、本発明は、角栓や老化した角質を除去する効果に優れ、除去後の傷の化膿を抑制したシート状パック料を提供することは明らかである。

フロントページの続き

(51) Int. Cl. ⁶

A 6 1 K 7/42

7/48

識別記号

庁内整理番号

F I

A 6 1 K 7/42

7/48

技術表示箇所



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **10001418 A**(43) Date of publication of application: **06.01.98**

(51) Int. Cl.

A61K 7/00**A61K 7/42****A61K 7/48**(21) Application number: **08174187**(71) Applicant: **KANEBO LTD**(22) Date of filing: **12.06.96**(72) Inventor: **SAITO MASAHIRO
KURODA AKIHIRO**(54) **SHEET-SHAPED PACK MATERIAL**

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To prepare a sheet-shaped pack material, capable of suppressing the suppuration of injuries which may occur after removal of sebum or aged keratin by compounding the obverse surface or the entire of a sheet-shaped pack material with a bactericidal agent and/or an antibacterial agent.

SOLUTION: This peel off-type sheet-shaped pack material is obtained by compounding preferably the sticky adhesive layer of the utmost surface with a bactericidal agent and/or an antibacterial agent. Further, the compounding amount of the bactericidal agent or an antibacterial agent is, e.g. 0.05wt.% in the case of chlorhexidine glucuronate based on the entire weight of the pack material. As an example of a method for compounding the pack material with the bactericidal agent or the antibacterial agent, it is cited that a stock solution of the pack material mainly composed of an aqueous or alcohol solution of an adhesive agent is compounded with the bactericidal agent or the

antibacterial agent, and subsequently the resultant solution is processed to form a sheet shape by using a device such as a doctor blade followed by drying. Thus obtained pack material can prevent the suppuration of many injuries or hyperplasia which may occur after good removal of sebum.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO